

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	PARCウィル大東			
○保護者評価実施期間	2025年9月29日		～	2025年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)	1名
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		～	2025年12月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		8	(回答者数)8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所には多職種が在籍しており、それぞれの専門的な支援が受けることが出来る。	看護師が医療的ケアだけでなく、日常の遊びや活動にも入り、安心感を提供している。 理学療法士が身体機能評価を行い、遊びの中にリハビリ要素を自然に組み込む	保護者向けに専門職による相談日や講座（医療ケア講習、姿勢・運動の相談など）を設ける
2	訪問看護ステーションを併設している。	訪問看護ステーションと情報共有し、子どもの医療的ケアや健康状態を把握できている。	訪問看護と合同でケース会議などを実施し、より情報や支援の方針をそろえていく。
3	少人数制による一人ひとりに寄り添った丁寧な支援	少人数なため、子どもの興味・得意・苦手を深く理解できる。	保護者との連絡を密にし、家庭と事業所の支援をつないでいく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員数が少ないため急な欠員や長期休暇（春・夏・冬休み）に対応しにくい。	医療的ケア児の受け入れは、看護師の人数に大きく依存してしまう。 新規依頼や利用希望が増えても、すぐに枠を広げられない。	訪問看護ステーションと連携し、必要時に看護師支援を受けられる体制を整える。 スタッフの負担軽減のため、事務作業の効率化や役割分担の見直しを行う。
2	地域や保護者支援の時間が十分に確保できていない。	医療的ケアや個別支援に時間を取られ、保護者との面談時間が限られる。 人員不足により通常業務に時間が割かれ保護者や地域と連携がとれていない。	訪問看護ステーションと連携し、家庭での困りごとや悩みを事前に確認しておく。 人材確保計画を立てる。
3	事業所内に相談支援専門員がいない。	相談支援との連絡調整に時間がかかり、支援方針の共有に時間がかかる。 新規の依頼獲得がしにくい。	外部の相談支援専門員との連携強化する。地域の相談支援事業所と連携し、定期的なケース会議や情報共有を行う。